



Cultura Italiana
Italian Language School

“歓迎”の言葉

ようこそボローニャへ、ようこそ外国人対象のイタリア語学校、Cultura Italianaへ！
私はマッシモ・マラッチ、Cultura Italianaの校長です。Cultura Italianaはここボローニャ校のほか、マレンマ地方にあるマンチャーノ校（トスカーナ州南部に位置する、海にほど近い丘の上の牧歌的な中世の町）、アレツォ校（フィレンツェ、ペルージャ、ローマの間にある、トスカーナ州の美しい街）の全3校です。

私と共にCultura Italianaで働いている、アドリアーナ、アレッサンドロ、ロベルタ、ナッツァレーナ、エリーザ、ステファニー、パオロ、エレナ、ルクレツィア、フランチェスコ、バルバラそしてその他の教師が、あなた方・クラス・レッスンをお世話・担当します。本校の職員一人一人が、それぞれの役割・機能を果たしており、運営が分割されています。実際、ここでは各職員が直接、あなた方のボローニャ滞在についての責任者であり、イタリア語の習得においてあなた方が最大限に上達できるように努めています。まず第一に、あなた方と直接接触することとなる担当教師は、クラスまたは生徒各人に対する教授法を調整しつつ、あなた方のイタリア語習得のリズムを指導します。あなた方は、イタリア人のように会話することを学ぶためにここ、ボローニャに来たわけです。会話するというのは、母国語から・母国語に翻訳しながらではなく、イタリア語で表現したり、イタリア語でメッセージを理解する、ということです。イタリア語会話における典型的な特徴は、例えば、顔の表情・ジェスチャー・気軽さ（会話のテーマが深刻なものであったとしても）・陽気な話し方・遊びなどです。私達イタリア人はよくしゃべります。私たちにとって「話す」ということは気軽な行動であり、私たちの間では、常に言葉が飛び交っています。これは英語・ドイツ語・日本語を母国語とする人にとっては、非常に難しいことです。要するにイタリア語は、例えば英語のようにはっきりとものを言う言語ではありません：一つのことに対してこれとはっきり言うことはなく、えんえんとしゃべります。このため、2ページ分の英文をイタリア語に翻訳すると、4-5ページになってしまうこともよくあります。イタリア語で会話をするためには、外国人はイタリア語で話さなければならないばかりではなく、会話にどの程度の重要性があるのか、を理解することが必要です。例えば、あるイタリア人が自分の生活のプライベートな事柄について話したとしても、友達だから、というわけではありません。または、ある人を愛情を込めて抱きしめたとしても、二人が愛し合っている、というわけではありません。イタリア人は、“しゃべって、しゃべって、よくしゃべって、ジェスチャーを盛んにし、抱き合い、でも本当に意味のあることはほんの一握りしか言わない”、私がその例です！

ボローニャは今日、中世都市の構造を呈しています。その中心には、かつてはその高さが所有者である一族の威信を表していた、2基の塔があります。市の中心からは、1900年に市を取り囲んでいた壁が取り壊された後もいくつかは現存している12の門に向かって、12本の道が放射状に（ちょうど自転車の車輪のように）伸びています。ボローニャのシンボルの一つである柱廊はのべ42kmに渡り、ユネスコの人類資産に提案されています。柱廊は中世に、より広い居住区間を確保し、かつ税金を少なく払う（柱廊は公的空間とみなされたので、その分の税金は払う必要が無かった）ために使われていたものです。水入らず的な環境でおしゃべりができたり、雨や車の往来を避けてウインドウ・ショッピングができたりと、今日、柱廊はとても便利なものとなっています。

車に注意！イタリア人は赤信号を守らなかつたり、横断歩道を守らなかつたりします。くれぐれも注意すること。オートバイ・スクーターはとても危険です。交通規則を全く無視しています！要注意！

街は古代エトルリアを起源とし、その後ローマ帝国の支配下にありました。今でもその軌跡をたどることができます。実際、ひとつは北から南に、もうひとつは東から西へと伸びる2本の太い道の交差点を中心に市が形成されています。ボローニャ市には今日、42万人が居住しています（周辺部を含めると、90万人）。産業革命のずっと以前にさかのぼる織機にはじまり、5世紀に渡る産業の歴史の中で育まれた、非常にフレキシブルでかつ高い技術力を誇る数多くの小規模企業を抱える、とても豊かな市です。ボローニャに居住する家族の60%が「シングル」・「1人家族」であり、その結果として子供の数はとても少なくなっています。家族を持たない人たちは、仕事のあと、家で過ごすよりも外出することを好むことから、娯楽場が多く存在します。このため、社会学者は、ディスコ・バル・オステリア（イタリア風居酒屋）・レストラン、加えて（幸運にも）映画館・劇場・博物館（美術館）などの娯楽場の消費（結果として供給）が世界の中でも最も多い地域の一つである、ボローニャ・リミニ・ベネツィアに囲まれた地域を「娯楽の三角地帯」と呼んでいます。このこともあって、統計によるとボローニャは、多くのイタリア人が住んでみたい都市である、とされています。実際、人々の社交好きな性格やヨーロッパの他都市のスタンダードに匹敵する公共サービスのおかげで、ここでの生活の質は満足のいくものです。逆にイタリアの大都市の多くは、公共交通・病院・インフラ（経済基盤）などの公共サービスが全く不適切なレベルにとどまっています。

ボローニャはいわゆる観光都市ではありません。観光客は通常、フィレンツェ・ヴェネツィア・ローマに行きます。ボローニャに来るのは、観光に代表されるイタリアではなく、真のイタリアを知りたいと望む、えりすぐりの観光客です。したがって、ボローニャの娯楽場にいるのは観光客ではなく、イタリア人です。ボローニャは、イタリアに押し寄せる観光客の波から守られた都市ですが、ボローニャがとても美しい都市であることには変わりはありません。が、その美しさは、他の中世都市にも多く見られるように、隠されています。確かにフィレンツェは素晴らしく、その美しさを目の当たりにすることができ、また、それを見せつけています。なぜなら、ルネッサンス都市であるからです。フィレンツェの映画スターのような美しさに比べると、ボローニャの美しさは夫や妻の持つ美しさのようなものだ、と私たちは言っています。

ボローニャは特に、大学と食文化という2つの要素によって世界中に知られています。

ボローニャ大学は、ヨーロッパ最古の大学です。その設立は、ヨーロッパ中の学生がローマ法を学びに来ていた、1088年にさかのぼります。当時のボローニャは都市国家であり、ローマ法を学ぶことは、どのように“統治する”か、を知るうえで欠かせないものでした。当時は、ローマ法王・皇帝・国王・領主が伝統的に支配力を有しており、ヨーロッパの有力かつ裕福な一族を代表する若者が“ユスティニアヌス法典”、ローマ法を学びに来ていました。生徒は直接、教授（当時は本や部屋の賃貸をすることもよくあった）に授業料を支払い、また、本がとても貴重で重かったことから、本を持ち運ばせるために下男を使うこともよくありました。

今日、ボローニャ大学に在籍している学生は11万2千人にのぼります。学生の存在は、街を文化的にも娯乐的にもより活気に満ちたものにしてしています。夜も、街には人が溢れており、男の人や女の人が一人または小グループでこっちの店からあっちの店へとそぞろ歩きするのを目にします。

市内のレストランでは、おいしい料理を味わうことができます。ボローニャは平均的には生活費の高い都市ですが、おいしいレストランは比較的安い値段で見つかります。ボローニャ料理の代表と言えば、トルテッリーニ。正方形のパスタに肉やパルメザン・チーズを包み、おへソの形に巻いたものです。もともとは何か大きな行事のとき、例えばクリスマスなどに、家庭で作られていたものです。ここで一つ注意！ボローニャにはいわゆる“ボローニャ風スパゲッティ（Spaghetti alla BologneseまたはSpaghetti Bolognesi）”は存在しません！ボローニャにあるのは“ボローニャ風タリアテッレ（Tagliatelle alla Bolognese:きし麺のような幅広のパスタを使ったもの）”です。

街について長々とお話しましたが、これは校外の環境が、イタリア人のように会話することを学ぶ上で非常に重要であるからです。校内では、イタリア人のように会話するための手助けを受けるのに加え、話すこと・理解すること・読むことそして書くことを学びます。イタリア語で会話することは、あなた方の国にいても学べるような、単にイタリア語で話すこと・イタリア語を理解すること、とは異なります。あなた方はイタリアに来たからこそ、本当のイタリア語表現に出会える機会を得るのです。これは、特に校外でなし得ることです。あなた方の校外での人間関係は直接的に学校が関与するものではなく、幸運によるものです：運がよければ、会話の相手となってくれるイタリア人と知り合うことができるでしょう。

授業は初級・中級コースが午前中（9時から12時40分）、中級・上級コースが午後（13時から16時40分）に行われます。途中20分の休憩1回をはさみ、1時限50分の4時限で構成されています。クラスの人員が6名に満たない場合（例えば4名）、授業がより集中して行われ、学習内容が濃くなることから、授業時間が4時限から3時限に短縮されます。たまたまクラスの人員が10名ではなく、4名のクラスに入るのは、あなた方にとっては幸運なことですが、ボローニャ校ではあまりありません。

授業前半ではイタリア語構造を、後半では担当教師が変わり、イタリア人のように表現すること、つまりイタリア語会話を勉強します。レベル（全10レベル）や選択したコース（通常コース・個人コース・2人コースなど）によって、数々のクラスがあります。生徒が入れ替わったり、また一人一人の学習リズムが異なるため、2週間ごとにクラスが変わります

。例えば、スペイン語を母国語とする人は、2週間後には、英語を母国語とする人よりもひとつ上のクラスになるでしょう。でも、これはある人がより優秀で、ある人が他よりも劣っている、ということではありません。例えばスペイン人の場合、表現については上級クラス、文法に関しては下級レベルのクラスということも多々あります。

クラスの中は、くつろいだ雰囲気であればなりません。あなた方はリラックスした穏やかな気分で、間違えることを恐れずに授業にのぞむことが必要です。この段階では、あなた方はイタリア語で話すのではなく、“言葉の意味を母国語から翻訳する”という手続きをふみながら、イタリア語に似た母国語を話します。あなた方が話す言語は、“interlingua（中間言語）”と呼ばれているもの、つまり、イタリア語とあなた方の母国語の“間”に位置する言語です。中間言語は、だんだんイタリア語に近づいていかなければなりません。表現する中であなた方がおかす間違いは、イタリア語で話すことにたどりつくための、ひとつの階段のようなものです。

各クラスはレベルに限らず、それぞれ異なります。実際、10の異なるレベルがありますが、このレベルが常にクラスの質を左右するわけではなく、グループの構成によるところが大きくなります。このため、もしクラスの中で居心地が悪いと感じたなら（例えばクラスの誰かがけんか腰であるとか）、クラスの担当教師またはクラス責任者（ナッツァレーナ、エリーザ、ステファニー、ロベルタ）に相談してください。この場合、学校側としては解決策を検討します。なぜなら、イタリア語で話すことを学ぶためには、あなた方がくつろいだ気分で、かつ満足していることが必要だからです。が、毎日イタリア語を話す上でも理解する上でもより進歩していかなければならないことから、多少のフラストレーションは常につきもので、また不可欠なものです。更に、生徒は“他のクラスメートは自分より優秀だ”という印象を抱きがちですが、これは印象にすぎません。

“Cultura

Italianaでの毎日は厳しい”、イタリア語は簡単ではありません。例えば、もしあなた方が担当教師のところに“あーあ、なんて難しいんだろう！”と言いに行ったとしても、それはもったもです、あなた方は困難な時期にあり、励ましを必要としています。でも、もしその教師が“そんなことないよ”と答えたとしたら、それは間違いです。あなた方にとってイタリア語は、本当にとっても難しいんですから。でも、本校の教師陣は、そのことを良く知っています。だから、あなた方をそばから支えるのです。例えば、コース第1週目を終えた第2週目に、生徒の多くが1日・2日危機的状況に陥るのを彼らはわかっています。この時点では妙に疲れを感じ、もう理解することも話すこともできないような気がします。頭の中はもうごちゃごちゃ！でもこの危機的状況は消え去ります。自然な流れです。教師は、“その苦しみは上達するために不可欠なものだから、心配しないで！”と言って、あなた方を励まします。

このため、障害に直面しても、コースを一時中断したり、短縮することはできません。本校はすでに予約済みのコースの一時中断・変更・短縮は認めません。クラス編成上の理由から、不可能なのです。もし何か問題があれば、あなた方の担当教師またはコース責任者に相談してください。彼らはあなた方がイタリア語の学習を継続できるように、あなた方と共に最も良い解決策を検討します。

レッスン後の課外活動プログラムは、2つの種類に分かれます。

一つは、各参加者が持つ特定の興味に合わせてオーガナイズされるものです。例えば、医者・建築家・教師・学生はそれぞれ、イタリアの同僚と話す機会を得ると共に、病院・建築工事現場・学校を訪問することができます。サッカーやバイク

に興味のある人はサッカー・クラブやドゥカーティのバイク・クラブに通うことも可能です。音楽に興味のある人は、例えば、古い楽器の収集家に会うことができます。

もしよろしければ、入学申込書にあなたは何に興味があるかを記入してください。個人または同じ興味を持つ小グループによる私的な会合となります。これらの会合はイタリア人同僚の都合・一般的状況・時間帯などの問題により、必ずしも実現できるとはかぎりません。

残念ながら、先方の仕事の都合などで生徒の皆さんに会う時間が取ってもらえないこともあります。皆さんの希望がかなうよう我々ができるだけのことをしたいと思っています：生徒の皆さんがそれぞれの興味を育み、自発的にイタリア人とイタリア語を話す機会を得るのは、本校にとっても大切なことだからです。

二つめは、全ての生徒を対象とする課外活動プログラムです。

授業は月曜日から金曜日、4時限／日、プラス毎日（土曜日を含む）2時間程度の宿題が想定されています。母国から遠く離れ、個人的に誰も気にかけてくれる人がいないと、悲しくなってしまうことが多々あるものです。実際、家から遠く離れた外国にいる人は、励ましを必要とするため、やたらと質問をしたり、注意を引こうとする傾向にあるのを私たちはわかっています。もし、あなた方が何らかの手助けを必要とする場合には、クラスでは担当教師、実務的な問題に関しては事務局、その他についてはコース責任者・特に火曜日午後・木曜日午後のチューターに相談してください。校内2階の事務局横には、3台のインターネット接続用コンピューターが利用できる部屋があります。

イタリア人の生活、歴史、芸術を観光客のようにではなく、イタリア人のように知ることを目的とした、主に校外で行われる課外活動プログラムが週2・3回設定されています。更に毎晩、娯楽場・映画館・劇場などに他の生徒たちと行く、学校からのお勧めイベントに参加することもできます。参加希望者が10人以上になった場合には、教師が一人同行するので、参加を決めたら、ドア近くの掲示板に貼ってある紙に氏名を記入してください。

Cultura

Italianaはイタリア語の教授に加え、教育的研究も行っており、これに関してはボローニャ大学の協力を得ています。言語を話すためには、頭だけを必要とするのではなく、母国語をコントロールしながらイタリア語を話すことは、逆に障害となります。自由に感情をこめて話すことがもっとも望ましいのです。このため、教師はあなた方を“感情的に巻き込み”、びっくりさせ、イタリア語に夢中にさせる方法を見つけます。

それでは、頑張ってください。楽しい滞在を！